

諫早湾干拓 与党として結論 開門軸に検討か

【熊日3月2日】赤松広隆農相は2日の閣議後会見で、国営諫早湾干拓事業(長崎県)の潮受け堤防排水門の開門問題を協議する同省検討委員を、有明海沿岸4県の民主、社民など与党国會議員9人で構成し、結論をまとめる考えを表明した。早期開門を求める熊本県選出の松野信夫参院議員のほか、同事業に否定的な議員が多数入る見通しで、開門を軸に検討が進むとみられる。

赤松農相は「国民新党、社民党も入ってもらい、与党の考えをできるだけ早くまとめたい」と説明した。検討委は2月、郡司彰農水副大臣をトップに発足し、人選を進めていた。農水政務官のほか、民主からは熊本と福岡、佐賀3県の国會議員各1人と、地元長崎県の2人が参加。国民新、社民の1人ずつが加わる。民主党内は意見が分かれており、長崎県連が開門に慎重な一方、熊本など3県連は開門を求めている。

社民党からは県関係の中島隆利副幹事長が参加する予定で、「党は早期開門を要求してきた。一日も早い実施を主張する」と語った。国民新党は開門の是非に姿勢を明確にしておらず、「検討委までに協議する」としている。

白紙検討は評価できる

【佐賀2月28日・論説】国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門の開門調査をめぐる、赤松広隆農相は農水省内に検討組織を設置し1、2カ月で開門の是非を判断する意向を明らかにした。従来の同省方針を前提とせず、「白紙の状態で、フリーハンドで検討してもらおう」という。農相が国による調整を打ち出したことで、開門調査が大きく動き出す可能性が出てきたことを前向きに評価したい。

省内に設置するのは「諫早湾干拓問題検討本部」(仮称)。郡司彰副大臣をトップに組織し、メンバーに有明海沿岸の佐賀、長崎など4県選出の民主党国會議員を入れる意向。検討課題は干拓地での農業の塩害対策、農業用水の確保、防災への影響などで、技術的に開門が可能かも判断する。できるだけ早く人選したいという。

農相は開門の是非を判断する可能性についても言及。佐賀地裁は2008年6月、5年間の開門調査を命じ、国が控訴しているが、農相は検討組織が開門を認めれば、控訴を取り下げ、準備中の環境アセスメントの結果を待たずに開門することもあり得るとの考えを示した。

ただ、その場合は「強権的に開門するわけにはいかない」「地元を説得

することも必要かもしれない」とも述べ、地元との合意形成を重視する考えも重ねて示した。昨春秋以来、地元協議を見守ってきたが、初めて国が調整に乗り出す方針を打ち出した。農相はこの問題でようやく指導力を発揮したといえるだろう。その姿勢は評価したい。

もともとこの事業では、1997年の潮受け堤防閉め切り以来、菅直人副総理兼財務相らが「無駄な公共事業の象徴」と批判。菅氏は佐賀地裁判決を「画期的」と評価し、民主党は09年の政策集にも排水門の開門調査を盛り込んでいて、同党内には開門に賛成する意見が強い。ただ、早期開門を求める佐賀県の漁業者に対し、長崎県側には開門調査には反発も強く、同党長崎県連も反対している。

このため政権交代が実現しても農相は対立する佐賀、長崎両県知事の会談を要請。昨年末に会談は実現したが、物別れに終わっていた。そもそも国の事業なのに、地元がゲタを預けて調整を求めても限界がある。政権交代後、この半年間はいったい何だったのかと問いたい気持ちだ。

今回の農相の判断は、開門に賛成する同党国會議員の働き掛けや、農相自身が長崎知事選の応援で訪れた長崎県内で漁業者から開門調査を直訴されたことも背景にあるだろう。実際、諫早湾内の3漁協の一つが開門賛成に転じ、長崎側も一枚岩ではないことが露呈した。

長崎知事選では民主党が推薦する候補が大差で落選。「政治とカネ」の問題で鳩山政権の支持率が低下傾向にあり、夏の参院選を視野に、早期開門をテコに政権浮揚につなげたいとの思惑があるとも考えられる。

アサリなど貝類の不漁や今季の有明海西部のノリの色落ち被害など、有明海異変の解明には開門調査が欠かせない。干拓周辺の住民や干拓入植者も納得がいくような開門の方法はあるはずで、検討組織で知恵をしぼり、できるだけ早く落とし所を探してほしい。

首相 諫早湾開門 言及の農相を支持

【日経2月23日】鳩山由紀夫首相は23日夜、長崎県の国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防排水門の開門問題について、開門の可能性に言及した赤松広隆農相を支持する考えを示した。「私も諫早湾には堤防を見に行ったことがある。苦しんでいた人の声も聞いた。農相が白紙で臨むということなのでそれに従うべきだ」と強調した。首相官邸で記者団に語った。

農相は同日の閣議後の記者会見で開門問題について「白紙の状態を検討する」と表明。2カ月程度で国の方針を固める考えを示した。